

Ⅲ ヒヤリ・ハットのケーススタディ

日常の「ヒヤリ・ハット」に学びましょう！

ケース 1

高速道路でつい携帯電話に出ようとして、危うくセンターポールに当たりそうになった。

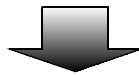


防止に向けた取組（例）

運転中は携帯電話に出ないようにするために必ずドライブモードにするか、又は安全な場所に車を止めて使用する。

ケース 2

部活動の女子部員にメールで連絡した際、可愛いと思ってハートのマークを付けたら「先生、気持ち悪い。セクハラ。」と言われた。



防止に向けた取組（例）

生徒の誤解や不適切な関係を防止するため、生徒との個人的なメールのやりとりはできるだけ避ける。どうしても必要な場合には、必要最小限の内容とする。

ケース 3

別室で1対1で生徒指導していて、生徒の態度にカッとなって、机をたたいてしまった。



防止に向けた取組（例）

感情的になり体罰を振るうことなどがないように、別室で生徒指導や教育相談を行う場合は、必ず複数の教職員で当たるようにする。

ケース 4

バックアップのために生徒の成績を保存し、職員室の机の中に入れていた個人のUSBメモリが行方不明となったが、引き出しの奥から出てきた。



防止に向けた取組（例）

情報セキュリティポリシーを守り、個人のUSBメモリを職場のパソコンに接続したり、生徒の個人情報などを絶対に保存しない。

- ◆ 研修などで使用する際は、校内研修で出てきた「ヒヤリ・ハット」の事例などを上側の「ケース」の枠に入力し、下側の「防止に向けた取組」の枠を空欄にして各自で記入したり、意見交換の後に記入するなど工夫してください。最終的には『ヒヤリ・ハット防止マニュアル』のような各校オリジナルの冊子などにまとめてみてはいかがでしょうか。